

プレスリリース
報道関係 各位

一般社団法人デジタル人材共創連盟

【文部科学省共催】

AI やプログラミング等の社会で求められる力を発表する「全国情報教育コンテスト」

——文部科学大臣賞・企業賞をはじめ、約 120 チームの入賞枠で全国から作品を募集——

一般社団法人デジタル人材共創連盟（以下「デジ連」、本社：大阪市住之江区、代表理事：鹿野利春）は、中高生等のデジタル関連活動のモチベーションの維持・向上を目的としたデジタル学園祭 第 3 回「全国情報教育コンテスト」を、2026 年 3 月に渋谷 QWS で開催いたします。

【ポイント】

- 全国を 4 ブロックに分けて審査を行う「一次ブロック審査（書類審査）」を新設。各ブロックから入賞作品および企業賞を選出し、合計約 120 チームの作品を表彰。
- AI 活用、データサイエンス、ものづくり、ロボットなど、社会で求められる技術や発想を発表できる全国規模の場として機能。
- 文部科学大臣賞を含む公式表彰に加え、株式会社 MIXI、ソフトバンク株式会社、株式会社 SAMURAI、株式会社 AVAD、GMO メディア株式会社、さくらインターネット株式会社、株式会社ナガセなど、複数企業による企業賞も充実。産業界の視点で評価。
- 企業賞に関連する評価ポイントや技術・着眼点を学べる「賞に近づくヒントとなる動画教材」を新たに公開。応募前から作品づくりに活かせる学習機会を提供。
- 情報Ⅰ・情報Ⅱ、探究学習、デジタル系部活動、個人制作など、学校内外のデジタル関連活動の成果を発表する場として開催。DX ハイスクール事業の成果発表の場のひとつとしての活用も期待されている。

【概要】

一般社団法人デジタル人材共創連盟（以下「デジ連」、本社：大阪市住之江区、代表理事：鹿野利春）は、中高生等のデジタル関連活動のモチベーションの維持・向上を目的としたデジタル学園祭 第3回「全国情報教育コンテスト」（以下「全情コン」）を、2026年3月に渋谷スクランブルスクエア SHIBUYA QWS にて開催します。

全情コンは、文部科学省共催のもと、全国の中高生等が授業や探究活動、部活動、自主制作等で取り組んだ成果を発表する全国規模のコンテストです。情報Ⅰ・情報Ⅱ、総合的な探究の時間、デジタル系部活動、個人の創作活動など、学校内外のデジタル関連活動で培った力を作品として発表し、学校外の専門家や企業の視点から評価を受ける機会を提供します。

第3回となる本大会では、より多くの作品を評価できるよう審査制度を拡充しました。全国を4ブロックに分けて書類審査を行う「一次ブロック審査（書類審査）」を新たに導入し、各ブロックから入賞作品および企業賞を選出することで、合計約120チームの作品を表彰します。これにより、最終審査会に進出する10チームにとどまらず、多様な地域・分野の作品に光を当てることを目指します。

あわせて、協賛企業による企業賞の拡充や、企業賞に関連する評価ポイントや技術・着眼点を学べる動画教材の公開など、応募者が作品の質を高められる仕組みも整備しました。

【詳細】

■ 一次ブロック審査（書類審査）の新設

一次ブロック審査では、応募された作品を以下の4ブロックに分けて審査します。

- 北海道・東北・関東ブロック
- 東海・中部ブロック
- 近畿・北陸ブロック
- 九州・中国・四国ブロック

審査は、日本情報科教育学会の協力のもと、学会に所属する教員等が担当します。情報分野に精通した審査員が、全国で統一された審査基準に基づき審査を行う体制を整え、公平かつ公正な審査運用に努めています。各ブロックの入賞数および最終審査会への出場枠は、全国の応募総数と各ブロックの応募割合に応じて配分し、地域ごとの応募状況を踏まえながら、多様な作品を評価できるようにしています。一次ブロック審査では、全国で約120チームに入賞作品および各種企業賞を授与し、そのうち10チームが最終審査会に進出します。

■ 企業賞および学習動画による作品づくりの支援

本大会では、ダイヤモンドスポンサー・プラチナスポンサー・ゴールドスポンサー各社による企業賞を設けています。AI、データサイエンス、ものづくり等、企業ごとの専門性を生かした観点から作品を評価します。あわせて、ダイヤモンド・プラチナスポンサーの協力により、企業賞に関連する評価ポイントや技術・着眼点を学べる「賞に近づくヒントとなる動画教材」を新たに公開しました。動画では、企業が重視するテーマや評価の視点、関連する技術の基礎、探究の進め方のヒントなどを紹介しており、応募前の学習や作品づくりの方針検討に活用できます。企業賞を目指す応募者はもちろん、作品の質を高めたいすべての中高生等にとって、発想の幅を広げる学びの機会となることを期待しています。

■ DXハイスクールの成果発表の場としての活用

全情コンは、DXハイスクール事業支援の一環として作成されたプラン集との連携も視野に入れており、DXハイスクールの成果発表の場のひとつとして活用できるコンテストとして位置付けられています。学校現場での

認知も広がりつつあり、授業や探究活動での取り組みを社会につなぐ場としての活用が期待されています。

【実施の背景】

経済産業省が 2022 年に発表した「Society 5.0 を見据えた中高生等のデジタル関連活動支援の在り方」においては、中高生や若者によるデジタル関連活動のモチベーションの維持・向上を目的とした全国的な成果発表の場の必要性が提言されました。この提言を受け、その社会実装の一つとして、2024 年よりデジタル学園祭「全国情報教育コンテスト」が開催されています。

【応募概要】

- 応募期間：2025 年 11 月 27 日（木）～2026 年 1 月 15 日（木）17:00
- 募集内容：
「暮らしや学校をより良くする（DX する）」をテーマに、生徒・学生などが授業、部活動、または個人の活動を通して培った力を生かして制作した、デジタル技術を活用した作品（アイデアまたはプロダクト）を募集します。
身の回りにある課題や困りごとを発見し、その解決に向けたアイデアを考案するとともに、デジタルの力を用いてその解決策を「カタチ」にし、創造力を発揮してユニークで実現可能な作品を制作・発表してください。
- 応募対象：
2025 年 4 月 1 日時点で 12 歳以上、かつ 2026 年 3 月 31 日時点で 18 歳以下の者。
上記年齢要件を満たしていれば、学校に在籍していない者も応募可能です。
高等学校に在籍している者については、19 歳以上であっても応募を認めます。
チームまたは個人での応募が可能です。
最終審査会 2026 年 3 月 14 日（土）に会場で発表できる方。
- 最終審査会：
2026 年 3 月 14 日（土）に渋谷スクランブルスクエア SHIBUYA QWS（東京都渋谷区渋谷二丁目 24 番 12 号）で実施します。最終審査会では、制作者が作品のプレゼンテーションを行い、審査員による審議を経て各賞を決定します。

※その他の詳細は公式サイトをご確認ください。

<https://zenjyocon.jp/>

【本大会を支援してくださっている企業】

- ダイヤモンドスポンサー
株式会社 MIXI
 - プラチナスポンサー
ソフトバンク株式会社／株式会社 SAMURAI／株式会社 AVAD
 - ゴールドスポンサー
GMO メディア株式会社／さくらインターネット株式会社／株式会社ナガセ
-

【全体概要】

- 主催：デジタル学園祭「全国情報教育コンテスト」運営事務局（デジ連）
 - 共催：文部科学省
 - 後援：株式会社 共同通信社／経済産業省／日本情報科教育学会／全国高等学校情報教育研究会
-

【本件に関するお問い合わせ先】

デジタル学園祭「全国情報教育コンテスト」事務局（デジ連）

E-mail：gakuensai_info アット dle.or.jp

※「アット」を@に変えてください。

【一般社団法人デジタル人材共創連盟（デジ連）について】（URL：https://dle.or.jp/）

一般社団法人デジタル人材共創連盟（デジ連）は、中高生等のデジタル関連活動支援を目的に、経済産業省の検討会が取りまとめた提言の社会実装を担う団体として、2022年7月に設立。若年層のデジタル関連活動等を支援する全国組織として、経済産業省、文部科学省等と連携し、デジタル関連活動の普及や指導人材の育成に取り組んでいます。

高校における情報Ⅰの必修化、情報Ⅱの拡大を文部科学省と連携して支援するとともに、パソコン部、プログラミング部、ロボット部、AI部といったデジタル関連の部活動や個人のデジタル活動を活性化・高度化させ、生徒一人ひとりのデジタルスキル向上を図るべく、産業界と教育界が連携して事業を展開しています。

- 所在地：大阪府大阪市住之江区南港北 2-1-10 ATC ビル ITM 棟 3F D-1
- 代表者：代表理事 鹿野 利春（京都精華大学 メディア表現学部 教授）
- 事務局運営：一般社団法人 i-RooBO Network Forum